表1 65歳以上の髙齢者の通院者率上位5傷病(複数回答)

雅绸		<b>第2個</b>	第3位。	<b>拿4個</b> 。	<b>第3位</b>
	高血圧症	眼の病気	糖尿病	腰痛症	前立腺肥大症
罗性	24.0%	10.7%	10.7%	9.5%	8.2%
	高血圧症	眼の病気	腰痛症	脂質異常症	骨粗鬆症
文性	25.3%	14.6%	13.2%	9.4%	8.1%
12Codinin initial limited					(文献¹)より)

康状況は加齢とともに悪くなり、85歳以上の 男性の38.4%、女性の41.7%が自覚症状、通 院、健康状態に起因する生活への影響のすべ てがあると回答している(図1).

## 高齢者と超高齢者の死因

人口動態統計による平成21年度の年齢階級別死因は,55~84歳までが悪性新生物,心疾患,脳血管疾患の順であり<sup>2)</sup>,これよりも若い世代では自殺,不慮の事故が上位にあるのが特徴である。中年者でも高齢者でも基本的には死因に大きな違いはない。しかし,90歳以上の超高齢者では悪性新生物による死亡の割合が低下し,心疾患による死亡の割合が増加する。肺炎による死亡も超高齢者では増加している。また死因としての「老衰」が第5位までに登場しているのも超高齢者の特徴である(表2).

#### 高齢者疾患の臨床的特徴

高齢者疾患には認知症や骨粗鬆症,加齢性 難聴,白内障など高齢者特有の疾患もあるが, 腰痛症や関節症などの整形外科的な疾患,高 血圧症や糖尿病,脂質異常症,癌,動脈硬化 性疾患など一般成人にも見られる疾患も多い.

しかも高齢者では、これらの疾患を同時に 持っており、また症状が出にくく診断が難し かったり、治療への反応が悪く慢性化しやす かったりする、特に疾患がなくても、筋肉量 男性 85歳以上 14.2% 47.4% 38.4% 75~84歳 17.4% 55.8% 26.8% 65~74歳 28.1% 56.7% 38.4%

女性 85歳以上 12.2% 26.3% 41.7% 75~84歳 13.7% 55.2% 31.1% 65~74歳 24.4% 58.7% 17.0%

- □ 自覚症状・通院・生活への影響ともなし
- ☑ 自覚症状・通院・生活への影響いずれかあり

■ 自覚症状・通院・生活への影響ともあり

図1 性別・年齢別に見た高齢者の健康状態の構成割合 (入院中,回答不詳の者を除く)

(文献1)より)

が減少するサルコペニアと呼ばれる状態や, 日常生活活動に支障の生じている脆弱高齢者, 要介護高齢者も多い<sup>3)</sup>.

高齢者疾患を診る場合には、栄養問題を考慮することがきわめて重要である<sup>4)</sup>. 老化に伴う生理学的変化として、消化吸収機能が低下し、エネルギー消費量が減って、食欲が低下する. 感覚機能、特に食欲に密接に関わる味覚、臭覚、視覚などの機能の低下がいっそう食欲不振を増強させる. 高齢者に多い心疾患に使われるジギタリス薬などには食欲を減退させる副作用が往々にして見られる.

また亜鉛欠乏は味覚障害を起こし、食欲低 下の原因となる. 亜鉛欠乏症は若年者に多い が. 最近では高齢者にも多く見られる. 亜鉛

表2 髙	齢者の	年齢階級	別死因順位
------	-----	------	-------

海酚酸红	第6	第2位:"	第3世	# 第4位	"
65~69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不腐の事故
70~74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
75∼79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80~84	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
, 85 - 89	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老 衰
90 ∼ 94	心疾患	肺炎	悪性新生物	脳血管疾患	老 衰
95~99	心疾患	肺炎	老 衰	脳血管疾患	悪性新生物
100歳以上	老 衰	心疾患	肺炎	脳血管疾患	悪性新生物

(文献<sup>2)</sup>より)

の欠乏は色々な薬によって起きることが知られている。ACE阻害薬は降圧薬の中では最も多く使用されており、副作用の少ない薬であるが、亜鉛欠乏を起こす。また、脂質異常症に対するスタチン、抗ヒスタミン薬やバイアグラ®、カルシウムや抗菌薬でも亜鉛欠乏を起こすことがある。カルシウムは亜鉛と吸収が拮抗するので、カルシウムをサプリメントとして多量に摂ると亜鉛が吸収されなくなる。また、ストレスでも低下する。

このような機序で60歳以上の味覚障害の1/3は亜鉛欠乏症が原因ではないかと言われている。亜鉛は1日当たり約12mg必要であるが、平均的日本人で9mg程度しか摂れていない。亜鉛が欠乏すると味蕾が萎縮する。味蕾は萎縮してしまうと再生しにくく、特に高齢者では早期に治療しないと回復しなくなってしまう。

また亜鉛が欠乏すると、創傷治癒が悪くなったり、免疫不全で肺炎などに罹りやすくなると言われている。消化性潰瘍治療薬のポラプレジンク(プロマック®)は亜鉛とL-カルノシンの錯体であり、保険適用外であるが、15%顆粒、1回1包、1日2回が亜鉛欠乏症の治療に使われる。

血清アルブミンは高齢者の栄養状態を示す 指標として最も有用なものである. 健康な老 人では、加齢に伴う血清アルブミンの低下は 見られない、血清アルブミンは生命予後の有 用な指標でもある、アルブミン値が3.5 mg/ dL以下の状態では骨格筋の消耗が始まって いる可能性が強い.

脂質異常症,特に高コレステロール血症は虚血性心疾患のリスクとなる.血清コレステロール値が300 mg/dLを超えるような場合,家族性の脂質異常症であることがほとんどで,治療しない限り老年に達する前に心疾患などで死亡してしまうことが多い.しかし高齢者では,低コレステロール血症がむしろ死亡や日常生活の活動能力の低下につながることが知られている.

肥満度については、日本肥満学会では体重 (kg) を身長 (m) の2乗で割って求めた BMI が22である場合を理想的な肥満度とし、BMI が25以上を肥満と定義している。また同様に、メタボリックシンドロームにおける腹部 肥満は、ウエスト周囲径が男性で85 cm以上、女性で90cm以上と定義されている。

これらの定義は一般成人も高齢者も区別せずに使用されているが、高齢者での検証はほとんどされていない。高齢者では椎間の狭小化、椎骨の圧迫骨折による脊椎前弯の増強などにより、身長が年齢とともに低くなっていく、このためBMIは本来あるべき値よりも

44 日本医事新報 No.4544 © 2011. 5, 28

大きくなっていることにも注意しなければならない. 高齢者では肥満よりもやせの重要性を認識すべきである. 高度の肥満に伴う高血圧症や糖尿病などがない限り, 高齢者に食事制限を勧めるべきではない.

# 高齢者における検査値の見方

高齢者における検査値の判定には注意が必要である5. 検査値に異常を来す要因としては、検査手技などの技術的要因、体質性黄疸など遺伝的要因による個人差、さらに同じ個人でも、検査の時刻や季節、体位、運動や食事の影響などによる個人内変動がある. 技術的要因としては、高齢者では静脈が脆く、しばしば採血が困難であり、採血時の溶血が問題となる場合が多い. 溶血により血清カリウムやLDHが高値になることがある.

同一個人でも測定時の条件で異常値になることがある。こうした個人内変動は検体採取時の時刻や体位、生活習慣による影響、薬物の影響などによることが多い、時間的要因には日内変動、日差、季節差が挙げられる。日内変動を示す検査値としては血糖値、血清鉄、中性脂肪、脂肪酸、ビリルビン、遊離脂肪酸、副腎皮質ホルモンなどがある。これらの検査では採血の時刻に留意しなければならない。

筋組織からの逸脱酵素であるCK、AST、LDHの上昇が運動後に見られる。その上昇は運動翌朝に最大となる。これらの検査値は登山などの負荷の大きい運動でなくても、高齢者ではレクリエーション程度の軽度の運動で上昇が見られることもある。逆に、CKは寝たきり状態では低値になる。

安静に横になっている場合と,起立し活動 している場合では循環血漿量が異なる.立位 で活動をしている場合には血液の濃縮が起こ り、血清蛋白質の濃度が上昇する、血清総蛋白量や血清アルブミンのみならず血清蛋白に結合して血清中に存在するカルシウムやビリルビン、コレステロールなどの測定値も立位活動時に上昇し、安静仰臥時では低下する。この低下は立位を30分ほど取ることで回復するが、同じ患者でも外来と入院で、また寝たきりの患者と自由に歩き回っている患者で、検査値の判定について考慮する必要がある。

# おわりに

高齢者は多彩な自覚症状,多数の疾患を同時に有していることが多い.個々の疾患や症状について,それぞれの分野の専門医が対応していては,検査や治療が増えて適切な対応ができない.老年内科の標榜を目指すためには,臓器別,分野別の縦割り医療ではなく,内科全般にわたる幅広い知識を持ち,高齢者の特性を理解することが必要である.さらに介護保険制度や高齢者医療,在宅医療など,家庭や社会的な環境についての理解と知識が重要であろう.高齢者,特に後期高齢者,超高齢者が今後急速に増えていく日本の社会で,老年内科医の果たすべき役割は大きい.老年内科医の今後の活躍に期待したい.

#### \*文献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部: 平成19年国民 生活基礎調査の概況, 2008.
- 2) 厚生労働省大臣官房統計情報部:平成21年人口 動態統計,2010.
- 3) 下方浩史, 他: Geriatr Med 49: 303, 2011.
- 4) 下方浩史, 他:成人病と生活習慣病 40:1026, 2010.
- 5) 下方浩史: 老年医学テキスト 改訂第3版,日本 老年医学会編,メジカルビュー社,東京,2008, p156.

# 週日本医事新報

Japan Medical Journal

No.4544

3028E

ガイドラインにおける民族・性・年齢差の考え方 NSAIDsの降圧薬・腎機能への影響 βラクタム系薬の投与回数減少の科学的根拠 針刺し事故後のIFN治療開始時期と治療終了の指標

膵性糖尿病の病態と治療·······伊藤鉄英

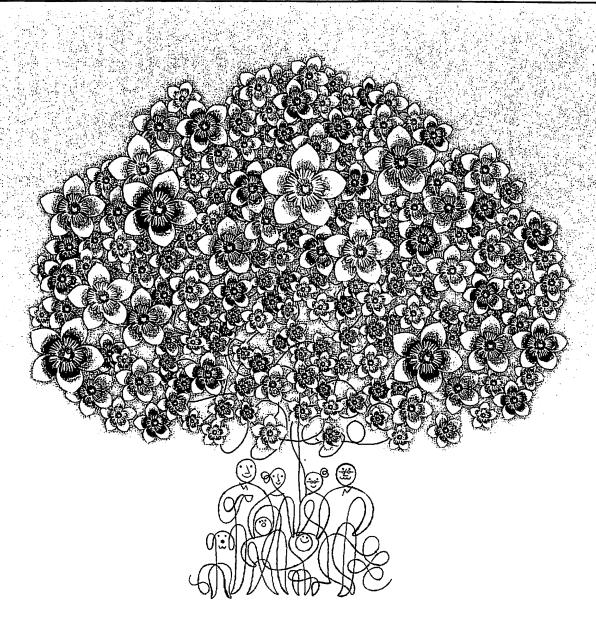
摂食・嚥下障害の評価と対応……柴田斉子ほか

MEK

厚労省、受診時定額負担の導入を提案



101-8718



# 「つながり」をもっと大切に。

患者さんの"その人らしさ"を守りたい。 タケダのさらなる挑戦は続きます。



メラトニン受容体アゴニスト (薬価) 処方せん医薬品<sup>20</sup>





アルツハイマー型認知症治療剤 ## 最5t4ABXB: ® 錠4mg・8mg・12mg ODg/dmg・8mg・12mg

内用液 4mg/mL 内用液 4mg/mL 数の基本収的

注)注息─週間間の利力せんにより使用すること

◆効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、透付文書をご参照ください。

成長が元(現日は水光) アンセンファーマ株式会社 (回1-0065 東京が1872年日 7-5-2

○ 武田蔡品工祭株式会社 1540/08年4月8中8日第月日1日1日1日

(資料請求先)

▲ 武田薬品工業株式会社 〒540-8845 大阪市中央区泊修町岡丁目 1番1号

2011年3月作成



4910202040512 00740

雑誌 20204-5/28



#### ORIGINAL ARTICLE

# Dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake associated with bone mineral density: findings from post-menopausal Japanese female subjects

M. Sugiura · M. Nakamura · K. Ogawa · Y. Ikoma · F. Ando · H. Shimokata · M. Yano

Received: 8 December 2009 / Accepted: 1 March 2010 / Published online: 18 May 2010 © International Osteoporosis Foundation and National Osteoporosis Foundation 2010

#### **Abstract**

Summary Recent studies show that antioxidants may reduce the risk of osteoporosis. This study showed the associations of bone mineral density with dietary patterns of antioxidant vitamins and carotenoids. The findings suggest the combination of vitamin C and β-cryptoxanthin intakes might provide benefit to bone health in post-menopausal Japanese female subjects. *Introduction* Recent epidemiological studies show antioxidants may reduce the risk of osteoporosis, but little is known about the dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intakes and their relation with bone mineral density (BMD). *Methods* A total of 293 post-menopausal female subjects who had received health examinations in the town of Mikkabi, Shizuoka Prefecture, Japan, participated in the study. Radial

preformed retinol, zeaxanthin, and vitamin E, was positively associated with the risk for low BMD. In contrast, the " $\beta$ -cryptoxanthin" pattern, characterized by notably high intakes of  $\beta$ -cryptoxanthin and vitamin C, was negatively associated with low BMD. The odds ratios for low BMD in the highest tertiles of dietary intakes of preformed retinol.

through principal component factor analysis.

intakes of  $\beta$ -cryptoxanthin and vitamin C, was negatively associated with low BMD. The odds ratios for low BMD in the highest tertiles of dietary intakes of preformed retinol, vitamin C, and  $\beta$ -cryptoxanthin against the lowest tertiles were 3.22 [95% confidence interval (CI), 1.38–7.51], 0.25 (CI, 0.10–0.66), and 0.40 (CI, 0.17–0.92), respectively, after adjustments for confounders. However, negative associations of vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin with low BMD were not significant after further adjustment for intake of  $\beta$ -cryptoxanthin or vitamin C, respectively. Higher intakes of both vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin were significantly associated with low BMD (P<0.05).

BMD was measured using dual-energy X-ray absorptiometry.

Dietary intakes of antioxidant vitamins and carotenoids were

assessed by using a validated food-frequency questionnaire.

Dietary patterns were identified on a selected set of antioxidants

Results Three dietary patterns were identified. The "reti-

nol" pattern, characterized by notably high intakes of

Conclusions The combination of vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin may be associated with radial BMD in post-menopausal Japanese female subjects.

**Keywords** Bone mineral density · Carotenoid · Dietary pattern · Preformed retinol · Vitamin

M. Sugiura ( ) K. Ogawa · Y. Ikoma · M. Yano Research team for health benefit of fruit, National Institute of Fruit Tree Science, 485-6 Shimizu-Okitsu-nakachou, Shizuoka-shi, Shizuoka 424-0292, Japan e-mail: msugiura@affrc.go.jp

#### M. Nakamura

Department of Community Health and Preventive Medicine, Hamamatsu University School of Medicine, 1-20-1 Handayama, Hamamatsu-shi, Shizuoka 431-3192, Japan

P. Ando
Department of Community Care Philanthropy,
Aichi Shukutoku University,
23 Sakuragaoka,
Nagoya-shi, Aichi 464-8671, Japan

H. Shimokata Department of Epidemiology, National Institute for Longevity Sciences, 36-3 Moriokachou, Obu-shi, Aichi 474-8522, Japan

#### Introduction

Osteoporosis and related fractures are a major public health problem [1]. Osteoporosis is a chronic disease characterized by low bone mineral density and microarchitectural



disruption, leading to bone fragility and an increased susceptibility to fractures [2]. Nutrition is an important modifiable factor in the development and maintenance of bone health, and numerous studies on nutrition and bone health have been conducted [3, 4]. Recent epidemiological studies have shown an association between fruit and vegetable intake and bone mineral density (BMD) in both young and elderly subjects [5–10].

Fruits and vegetables are rich sources of antioxidant vitamins and carotenoids, which have been shown to contribute to the body's defense against reactive oxygen species [11, 12].

Recent animal experiments and in vitro studies have shown that reactive oxygen species and free radicals are involved in osteoclastogenesis, in apoptosis of osteoblasts and osteocytes and therefore also in bone resorption [13-15]. Furthermore, recent epidemiological studies have shown a relationship between oxidative stress and BMD or osteoporosis [16-18]. These previous findings in epidemiological and experimental studies suggest that antioxidant micronutrients may provide benefits to bone metabolism against oxidative stress. In fact, recent epidemiological studies have reported inverse associations of antioxidant vitamin and carotenoid intake and/or serum level with low BMD, risk of fracture, and/or osteoporosis [19–24]. Very recently, we found that serum concentrations of carotenoids such as  $\beta$ -cryptoxanthin and  $\beta$ -carotene were weakly but positively associated with radial BMD in post-menopausal female subjects [25]. Therefore, antioxidant vitamins and carotenoids may be beneficial to the maintenance of bone health.

With regard to antioxidant vitamins and carotenoids, most studies have focused on a single antioxidant and examined the relationship between antioxidant intake and/or serum level and the status of bone health. However, these common approaches may not adequately account for the complicated interactions of these antioxidants because people consume diets consisting of a variety of foods with complex combinations of antioxidants rather than single antioxidant. Furthermore, it is unclear whether the beneficial effects of these antioxidants on bone health are synergistic or additive. To answer such questions, the identification of dietary patterns using factor analysis has been widely used to elucidate the relationship between diet and disease. This type of statistical analysis allows the development of appropriate recommendations for overall dietary habits.

The objective of this study was to identify the dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake associated with radial BMD in post-menopausal Japanese female subjects and to investigate the association of interactions of these antioxidants with bone health. The dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake with radial BMD were evaluated cross-sectionally.

# 

#### Subjects and methods

Subjects

In this survey, study subjects were recruited from participants in an annual health check-up program conducted by the local government of the town of Mikkabi, Shizuoka Prefecture, Japan in April 2005. Mikkabi is located in western Shizuoka, and about 40% of its residents work in agriculture. Fruit trees are the key industry in Mikkabi, which is an important producer of mandarin orange in Japan. A total of 1,891 males and females were subjects for the annual health check-up program. In total, 1,369 males and females (72.4% of total subjects), ranging in age from 30 to 70 years, had received the health check-up through the program.

Participants were recruited for this study, and informed consent was obtained from 699 subjects (222 males and 477 females). The response rate was 51.1%. This study was approved by the ethics committees of the National Institute of Fruit Tree Science and the Hamamatsu University School of Medicine. For the present study, we used the data of post-menopausal female subjects because, in our previous study, we had found inverse associations of serum antioxidant carotenoids with risk for low BMD in post-menopausal female subjects [25].

#### Bone mineral density measurement

The radial BMD was measured using dual-energy X-ray absorptiometry (DXA) of each participant's nondominant forearm with an osteometer (model DCS-600EX-III, ALOKA Co., LTD., Tokyo, Japan). This osteometer automatically measured the forearm length from the styloid process on the ulna, and DXA scan was automatically placed on the radial centered 1/3 of the forearm length. Calibration of the machine was performed daily, and quality assurance was performed by measuring the manufacturer's phantom. The CV of the radial BMD measurement was within 0.5%. In this study, the measurement of the radial BMD of each participant was performed by well-trained clinical technologists of the Seirei Preventive Health Care Center (Shizuoka, Japan).

#### Self-administered questionnaire

A self-administered questionnaire was used to collect information about a subject's history of osteoporosis, medications and/or hormone use, and lifestyle, including tobacco use (current smoker, ex-smoker, or non-smoker), exercise (1+ times per week), regular alcohol intake (1+ time per week), dietary supplement use (non-user, occasional-user, and current-user), and dietary habits. Diet

was assessed with a modified validated simple foodfrequency questionnaire (FFQ) developed especially for the Japanese [26, 27]. In this FFQ, Wakai et al. selected a total of 97 foods and dishes through a two-step procedure, first by ranking food items according to the contribution to the population intake of energy and nutrients and second by stepwise multiple regression analysis of individual food items as the independent variables and of total nutrient intake as the dependent variable. For simplicity, questions on portion sizes were not included except for a few selected food items, resulting in short time to complete the questionnaire. They validated this FFQ for food groups by referring to four 4-day dietary records (DRs), and correlation coefficients between FFQ and DRs were larger than 0.4 for most food groups. Information about alcohol consumption and the daily intake of 18 nutrients was estimated from the monthly food intake frequencies with either standard portion size (for most types of food) or subject-specified usual portion size (for rice, bread, and alcoholic and non-alcoholic beverages) using FFQ analysis software package for windows (Food-Frequency Questionnaire System, System Supply Co., LTD., Kanagawa, Japan). This FFQ analysis software computes an individual's food and nutrient intake form FFQ data based on "Standard tables of food composition in Japan" [28, 29].

The dietary carotenoid intakes of each individual were computed to obtain the amount of six carotenoids, lycopene,  $\alpha$ -carotene,  $\beta$ -carotene, lutein,  $\beta$ -cryptoxanthin, and zeaxanthin using a published database of the carotenoid composition of fruit and vegetables [30, 31]. In our survey, we calculated an individual's carotenoid intake from important sources of carotenoids. In this data analysis, the dietary carotenoid intakes were calculated from the FFQ data of individual food items not dishes [32].

The dietary intakes of total energy, calcium, potassium, magnesium, vitamins C, D, and E, preformed retinol, lycopene,  $\alpha$ -carotene,  $\beta$ -carotene, lutein,  $\beta$ -cryptoxanthin, and zeaxanthin of each subject were used in this report.

#### Statistical analyses

For this study, the following subjects were excluded from the data analyses: (1) those who reported a history of osteoporosis or taking medications for bone metabolism in the self-administered questionnaire (n=14); (2) those for whom the self-administered questionnaire data were incomplete (n=1); and (3) those for whom blood samples for serum-carotenoid analysis were not collected (n=1). As a result, a total of 293 post-menopausal female subjects were included in further data analysis.

Intakes of preformed retinol, vitamins C, D, and E, and six carotenoids were skewed toward the higher concentrations. These values were loge (natural)-transformed to

improve the normality of their distribution. All variables were presented as an original scale. The data are expressed as means (standard deviation), geometric mean (95% confidence interval), range, or percent.

A principal component analysis was used to derive the dietary patterns on the basis of the intakes of nine antioxidant vitamins and carotenoids obtained from the FFQ. To identify the number of factors to be retained, we used the criterion of eigenvalues>1.0, the most widely used criterion in factor analysis. Finally, we decided to retain three factors for further analysis. We applied a varimax rotation to the factor-loading matrix to achieve a simpler structure with greater interpretability. After the varimax rotation, the factor scores for each subject were saved from the principal component analysis. The factor-loading matrix represents correlation coefficients between individual antioxidants and dietary patterns. The percentage of variance explained by each factor was calculated by dividing the sum of the squares of the respective factor loadings by the number of variables.

Participants were divided into three categories according to tertiles of factor scores. Low radial BMD was defined as the lowest quartile of the value among study participants, i.e., equal to or less than 0.501 g/cm² in post-menopausal female subjects. To assess the relationship between dietary patterns and low radial BMD, logistic regression analyses were performed using three models. In model 1, we adjusted for age, weight, and height. Model 2: Years since menopause, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, supplement use, and total energy intake were further adjusted. Model 3: Intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D were further adjusted. The goodness-of-fit for logistic regression model was evaluated by Hosmer–Lemeshow Goodness-of-Fit test, and then, we calculated odds ratios.

For dietary intake of each antioxidant vitamin and carotenoid, participants were further divided into three categories according to tertiles of antioxidant vitamin and carotenoid intake, and logistic regression analyses were performed to assess the relationship between antioxidant vitamin and carotenoid intake with low radial BMD.

All statistical analyses were performed using a statistical software package for Windows (SPSS ver. 17.0, SPSS Inc., Chicago, IL, USA) on a personal computer.

#### Results

Clinical, biochemical, and nutrient intake profiles of study subjects

Table 1 shows the characteristics of the study subjects. The mean radial BMD in post-menopausal Japanese female



Table 1 Characteristics of the study subject

	Post-meno	pausal female
Number study subjects	293	
Age (years)	60.2	(6.2)
Body height (cm)	152.0	(5.5)
Body weight (kg)	51.9	(7.6)
Body mass index (kg/m2)	22.5	(3.0)
Bone mineral density (g/cm2)	0.561	(0.084)
Range		0.366-0.820
Intake		
Total energy including ethanol (MJ/day)	8.20	(2.01)
Total energy excluding ethanol (MJ/day)	8.15	(2.00)
Calcium (mg/day)	651	(256)
Potassium (mg/day)	2910	(967)
Magnesium (mg/day)	281	(81)
Retinol (μg/day) <sup>a, b</sup>	281	(259-305)
Vitamin C (mg/day) <sup>b</sup>	170	(161-179)
Vitamin D (μg/day) <sup>b</sup>	6.4	(5.9-6.9)
Vitamin E (mg/day) <sup>b</sup>	8.1	(7.8-8.4)
Lycopene (mg/day) <sup>b</sup>	0.15	(0.13-0.17)
α-Carotene (mg/day) <sup>b</sup>	0.25	(0.23-0.27)
β-Carotene (mg/day) <sup>b</sup>	1.86	(1.74–1.99)
Lutein (mg/day) <sup>b</sup>	2.06	(1.92-2.20)
β-Cryptoxanthin (mg/day) <sup>b</sup>	0.62	(0.52-0.73)
Zeaxanthin (mg/day) <sup>b</sup>	0.67	(0.61-0.73)
Current tobacco use (%)	1.7	
Exercise habits (%) <sup>c</sup>	21.5	
Regular alcohol intake (%)°	11.0	
Current supplement use (%)	9.6	

Data are mean (standard deviation), geometric mean (95% confidence interval)

subjects was  $0.561 \text{ g/cm}^2$ . The percent of subjects with osteoporosis whose radial BMD was less than 70% of that of the young adult mean was 9.2% [33]. The mean daily intakes of calcium, potassium, magnesium, preformed retinol, and vitamins C, D, and E were at least comparable to the recommended dietary allowance. Of the six carotenoids analyzed, that with the highest intake was lutein; the second was  $\beta$ -carotene, and the lowest was lycopene. In our survey, 9.6% of study subjects used supplements, but most used multivitamin supplements. The rate of supplement users among study subjects for vitamin C and D,  $\beta$ -carotene, and calcium were 3.1%, 0.3%, 0.7%, and 5.5%, respectively. Therefore, we think that specific quantitative intakes of vitamin, carotenoid, and mineral from supplement were negligible compared with those from foods.

Principal component analysis of dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake

The factor-loading matrices for the three retained factors are shown in Table 2. The high positive loadings indicate strong associations between given antioxidants and dietary patterns. Factor 1 had heavy loadings on β-carotene, αcarotene, lutein, lycopene, and vitamins E and C. This pattern was especially heavily loaded on carotenoids and was labeled the "Carotene" pattern. Factor 2 had heavy loadings on preformed retinol, zeaxanthin, vitamin E, lutein, vitamin C, and β-carotene. This pattern, heavily loaded on preformed retinol, zeaxanthin, and vitamin E, was labeled the "Retinol" pattern. Factor 3 had heavy loadings on β-cryptoxanthin, vitamin C, β-carotene, lutein, and vitamin E. This pattern, heavily loaded on βcryptoxanthin and vitamin C, was labeled the "β-cryptoxanthin" pattern. Overall, the three dietary patterns accounted for 73.1% of the variance in antioxidant vitamin and carotenoid intake.

Odds ratio of low radial BMD in the highest group of factor scores of each dietary pattern

The odds ratios of low radial BMD associated with the tertiles of factor scores of each of the three dietary patterns after adjustments for confounding factors are shown in Table 3. The odds ratios for the risk of low radial BMD in the highest tertile of factor scores against the lowest tertile used for the reference group were calculated. In the

**Table 2** Factor-loading matrix for the three dietary patterns of antioxidant vitamins and carotenoid intakes identified among 293 post-menopausal Japanese female subjects

	Factor 1: carotene	Factor 2: retinol	Factor 3: β-cryptoxanthin
Retinol <sup>a</sup>		0.825	
Vitamin C	0.435	0.285	0.773
Vitamin E	0.464	0.711	0.258
Lycopene	0.633		
α-Carotene	0.788		
β-Carotene	0.852	0.257	0.369
Lutein	0.740	0.447	0.270
β-Cryptoxanthin			0.920
Zeaxanthin		0.712	
Percentage of variance (%)	30.3	22.8	20.1

Data for 293 subjects from the self-administered food-frequency questionnaire. Absolute values <0.25 were excluded from the table for simplicity



<sup>&</sup>lt;sup>a</sup> Preformed retinol

<sup>&</sup>lt;sup>b</sup> These variables were represented as original scale after analysis by log

<sup>&</sup>lt;sup>c</sup>≥1 time per week

<sup>&</sup>lt;sup>a</sup> Preformed retinol

**Table 3** The odds ratios (and 95% confidence intervals) of tertiles of three dietary patterns on low bone mineral density in post-menopausal Japanese female subjects

Dietary patterns	Factor score	Number	Mode	el 1		Mode	el 2		Mode	el 3	
			OR	95% CI	P for trend	OR	95% CI	P for trend	OR	95% CI	P for trend
Factor 1: carotene	Lowest (Q1)	97	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	98	0.83	(0.40-1.72)		0.94	(0.44-2.00)		1.14	(0.51-2.54)	
	Highest (Q3)	98	1.31	(0.65-2.64)	0.370	1.38	(0.66-2.89)	0.340	2.30	(0.93-5.70)	0.064
Factor 2: retinol	Lowest (Q1)	97	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	98	1.16	(0.55-2.45)		1.35	(0.61-2.98)		1.08	(0.47-2.47)	
	Highest (Q3)	98	2.02	(0.99-4.09)	0.041	3.09	(1.28-7.47)	0.009	2.31	(0.90-5.89)	0.059
Factor 3: β-cryptoxanthin	Lowest (Q1)	97	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	98	0.55	(0.26-1.16)		0.54	(0.25-1.18)		0.53	(0.24-1.17)	
	Highest (Q3)	98	0.26	(0.11–0.59)	0.001	0.22	(0.09-0.54)	0.001	0.30	(0.11–0.77)	0.017

Model 1: Age, weight and height were adjusted. Model 2: Years since menopause, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, supplement use, and total energy intake were further adjusted. Model 3: Intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamins D were further adjusted

"Carotene" pattern, there was no significant association between the factor score and low radial BMD. In the "Retinol" pattern, a significantly higher odds ratio was observed in the highest tertile of factor score after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy. However, this significant association was not observed after further adjustments for intake of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D. On the other hand, in the "β-cryptoxanthin" pattern, a significantly lower odds ratio was observed in the highest tertile of factor scores after multivariate adjustment.

Odds ratios of low radial BMD in the highest group of antioxidant vitamin and carotenoid intake

The odds ratios for the risk of low radial BMD associated with the tertiles of daily intakes of each antioxidant vitamin and carotenoid after adjustments for confounding factors are shown in Table 4. A significantly higher odds ratio was observed in the highest tertile of preformed retinol intake after adjustments for age, weight, and height. This significant association was also observed after multivariate adjustments. Similarly, a significantly higher odds ratio was observed in the highest tertile of zeaxanthin intake after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy, but this significant association was not observed after further adjustments for intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D. In contrast, a significantly lower odds ratio was observed in the highest tertile of vitamin C intake after multivariate adjustments. Also, a significantly lower odds ratio was observed in the highest tertile of  $\beta$ -cryptoxanthin intake after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy, but this significant association was not observed after further adjustments for intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D.

Next, study subjects were divided into two groups by median values of vitamin C and/or β-cryptoxanthin intake. And then, all subjects were ranked into four groups as follows: group 1: lower intake of vitamin C (47–169 mg/day) with lower intake of  $\beta$ -cryptoxanthin (0–0.96 mg/day); group 2: lower intake of vitamin C (47–169 mg/day) with higher intake of β-cryptoxanthin (0.97–7.91 mg/day); group 3, higher intake of vitamin C (170–625 mg/day) with lower intake of β-cryptoxanthin (0–0.96 mg/day); group 4, higher intake of vitamin C (170–625 mg/day) with higher intake of β-cryptoxanthin (0.97-7.91 mg/day). In both groups of higher intake of vitamin C with lower intake of βcryptoxanthin and/or lower intake of vitamin C with higher intake of β-cryptoxanthin, significantly lower odds ratios were not observed against the lower intake group of both of them used for the reference group. In contrast, a significantly lower odds ratio was observed in the higher intake group of both of them after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy (Table 5). However, this significant lower odds ratio became insignificant after further adjustments for intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D (data not shown).



Osteoporos Int (2011) 22:143–152

Table 4 The odds ratios (and 95% confidence intervals) of tertiles of antioxidant intakes on low bone mineral density in post-menopausal Japanese female subjects

Dietary intake		Number	Range (mg/d) or ( $\mu$ g/d)	Mode	l 1		Mode	1 2		Mode	1 3	
				OR	95% CI	P for trend	OR	95% CI	P for trend	OR	95% CI	P for trend
Retinol <sup>a</sup>	Lowest (Q1)	97	(29–213)	1.00			1.00			1.00		***
	Middle (Q2)	98	(218–383)	1.30	(0.61-2.75)		1.65	(0.74-3.69)		1.28	(0.56-2.94)	
	Highest (Q3)	98	(386–3531)	2.37	(1.16-4.85)	0.014	3.22	(1.38–7.51)	0.007	2.52	(1.03-6.14)	0.031
Vitamin C	Lowest (Q1)	96	(47–139)	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	99	(140–214)	1.15	(0.55-2.40)		1.02	(0.47-2.22)		1.03	(0.45-2.36)	
	Highest (Q3)	98	(215-625)	0.35	(0.15-0.80)	0.004	0.25	(0.10-0.66)	0.001	0.25	(0.07-0.82)	0.010
Vitamin E	Lowest (Q1)	101	(3.2–7.2)	1.00			1.00			1.00	,	
	Middle (Q2)	97	(7.3–9.1)	0.61	(0.29-1.27)		0.56	(0.25-1.25)		0.49	(0.21-1.14)	
	Highest (Q3)	95	(9.2–30.9)	0.61	(0.29-1.27)	0.244	0.45	(0.16–1.31)	0.176	0.43	(0.14–1.36)	0.193
Lycopene	Lowest (Q1)	121	(0.00-0.06)	1.00			1.00			1.00	,	
	Middle (Q2)	76	(0.15-0.15)	1.02	(0.48-2.15)		1.10	(0.51-2.35)		1.06	(0.48-2.34)	
	Highest (Q3)	96	(0.36-1.78)	1.55	(0.79-3.04)	0.177	1.72	(0.85-3.47)	0.117	1.60	(0.75–3.38)	0.201
α-Carotene	Lowest (Q1)	95	(0.03-0.23)	1.00			1.00			1.00	,	
	Middle (Q2)	97	(0.24-0.37)	0.73	(0.36-1.48)		0.79	(0.38-1.66)		0.90	(0.42-1.95)	
	Highest (Q3)	101	(0.38-1.27)	0.77	(0.38-1.57)	0.522	0.78	(0.36-1.67)	0.551	1.05	(0.45-2.45)	0.882
β-Carotene	Lowest (Q1)	97	(0.34-1.52)	1.00			1.00			1.00	,	
	Middle (Q2)	99	(1.53–2.36)	0.61	(0.29-1.27)		0.63	(0.29-1.35)		0.74	(0.32-1.70)	
	Highest (Q3)	97	(2.37-8.19)	0.75	(0.37-1.53)	0.586	0.69	(0.31-1.55)	0.487	0.93	(0.33-2.62)	0.981
Lutein	Lowest (Q1)	98	(0.49-1.68)	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	97	(1.70–2.58)	1.56	(0.74-3.28)		1.84	(0.83-4.06)		2.10	(0.89-4.93)	
	Highest (Q3)	98	(2.59–10.01)	1.25	(0.59-2.62)	0.762	1.39	(0.60-3.23)	0.698	1.94	(0.69–5.48)	0.339
β-Cryptoxanthin	Lowest (Q1)	98	(0.00-0.30)	1.00			1.00			1.00		
	Middle (Q2)	101	(0.31-1.21)	0.52	(0.25-1.10)		0.47	(0.22-1.01)		0.49	(0.22-1.10)	
	Highest (Q3)	94	(1.22–7.91)	0.46	(0.21-1.00)	0.099	0.40	(0.17-0.92)	0.068	0.53	(0.22-1.28)	0.295
Zeaxanthin	Lowest (Q1)	95	(0.08-0.46)	1.00			1.00	•		1.00		
	Middle (Q2)	100	(0.47-0.96)	1.73	(0.82-3.65)		1.95	(0.89-4.27)		1.71	(0.75-3.87)	
	Highest (Q3)	98	(0.97-6.09)	1.96	(0.93-4.13)	0.104	2.65	(1.11–6.31)	0.038	2.51	(0.99–6.33)	0.061

Model 1: Age, weight and height were adjusted. Model 2: Years since menopause, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, supplement use, and total energy intake were further adjusted. Model 3: Intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamins D were further adjusted

<sup>&</sup>lt;sup>a</sup> Preformed retinol

Table 5 The odds ratios (and 95% confidence intervals) of four groups stratified by dietary intakes of vitamin C and β-cryptoxanthin on low bone mineral density in post-menopausal Japanese female subjects

		β-Cryptoxa	nthin intak	e			
		Low intake	(0–0.96mg	g/d)	High intake	(0.97–7.91	mg/d)
		Number	OR	95%CI	Number	OR	95%CI
Vitamin C intake	Low intake (47-169 mg/d)	113	1.00	(Reference)	34	0.73	(0.27–1.99)
	High intake (170-625 mg/d)	36	0.52	(0.18–1.52)	110	0.42	(0.19-0.93)

Age, weight, height, years since menopause, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, supplement use, and total energy intake were adjusted

#### Discussion

The objective of this study was to investigate the associations of dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake with radial BMD in post-menopausal Japanese female subjects. The results indicate that radial BMD was significantly associated with a dietary pattern heavily loaded on β-cryptoxanthin and vitamin C. Furthermore, we found that a high intake of vitamin C with β-cryptoxanthin was inversely associated with a low radial BMD. This investigation is the first reported cross-sectional study to examine the association of dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake with BMD. Numerous antioxidant vitamins and carotenoids are contained in fruits and vegetables, and several recent epidemiological reports have shown inverse associations of antioxidant vitamin and carotenoid intake or serum level with low BMD, risk of fracture, and/or risk of osteoporosis [16-18]. However, the association of BMD with dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake has not been thoroughly studied. Our findings further support the hypothesis that high intakes of fruits and vegetables rich in antioxidant vitamins and carotenoids, especially vitamin C and β-cryptoxanthin, may be beneficial to bone health in post-menopausal women.

On the other hand, some epidemiological studies have reported that excessive intake of retinol may have adverse effects on BMD [34-36]. In our study, a positive association between the factor score of the "Retinol" pattern and low radial BMD was observed after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy. For dietary antioxidants, a significantly higher odds ratio was observed in the highest tertile of preformed retinol intake against the lowest tertile used for the reference group after multivariate adjustments. The recommended daily intake of retinol activity equivalents is 600 µgRE/day for Japanese women, with a tolerable upper intake of 3,000 µgRE/day [37]. In the highest tertile of preformed retinol intake, all of them consumed more than the recommended dietary allowance for Japanese adult females (600  $\mu gRE/day$ ) although most subjects consumed less than 3,000  $\mu gRE/day$ . The effect of the dietary amount of preformed retinol on bone metabolism in Japanese female subjects has not been studied in detail, but a high intake of preformed retinol may be associated with the risk for low radial BMD. Further study is required.

In our data analyses, we identified three dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake from the principal component analysis. Although all dietary patterns were heavily loaded on vitamin C intake, the highest positive loading between vitamin C, and dietary pattern was observed in the " $\beta$ -cryptoxanthin" pattern. On the other hand, an association between  $\beta$ -cryptoxanthin and dietary pattern was observed in only the " $\beta$ -cryptoxanthin" pattern, which had an extremely high factor loading. Vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin are especially concentrated in citrus fruits such as Japanese mandarin orange. Therefore, a high intake of citrus fruit may be inversely associated with low BMD. In fact, in our previous study, we found that fruit intake was inversely associated with low radial BMD [25].

In animals, an experimentally induced deficiency of vitamin C led to impairments in bone mass, cartilage, and connective tissues [38, 39]. The protein in the bone matrix is over 90% collagen [40]. Vitamin C is an essential cofactor for the formation of collagen and the synthesis of hydroxyproline and hydroxylysine [41]. Therefore, vitamin C is an important micronutrient for the maintenance of bone health. Furthermore, it is well known that vitamin C reduces oxidative stress by scavenging singlet oxygen and peroxyl radicals. The relationship between oxidative stress and BMD or osteoporosis has recently been reported [16-18]. From the finding of osteopetrosis in mice lacking NFκB1 and NF-κB2, Iotsova et al. reported that NF-κB proteins are important for osteoclastogenesis [42]. NF-kB is activated by the exposure of cells to oxidative stress [43]. Therefore, it seems that reactive oxygen species enhance osteoclastogenesis and bone resorption. In fact, some studies have implicated reactive oxygen species in bone regulation [44, 45]. Furthermore, in epidemiological studies, it was reported that oxidative stress levels were



negatively associated with BMD and that antioxidant levels were lower in osteoporotic patients [19–24]. These previous findings in epidemiological and experimental studies suggest that antioxidant micronutrients may provide benefits to bone metabolism against oxidative stress. Therefore, it seems that vitamin C is an important micronutrient for the maintenance of bone health through its biological action on cofactors for collagen formation, the synthesis of hydroxyproline and hydroxylysine, and antioxidant activity.

Carotenoids, as antioxidants, may also play an important role in the prevention of oxidative stress-related osteoclastogenesis and bone resorption. Very recently, Yamaguchi et al. reported the beneficial effects of  $\beta$ -cryptoxanthin on bone metabolism [46-48]. Through in vitro and in vivo studies, they found that  $\beta$ -cryptoxanthin stimulated bone formation and inhibited bone resorption. Their results support the idea that  $\beta$ -cryptoxanthin may have a direct stimulatory effect on bone formation and an inhibitory effect on bone resorption. Recent epidemiological studies have shown an association of serum β-cryptoxanthin with bone health. Yang et al. examined serum-carotenoid concentrations in postmenopausal American female subjects and found that the serum concentrations of  $\beta$ -cryptoxanthin and lycopene were significantly lower in osteoporotic subjects than in nonosteoporotic subjects [22]. Furthermore, we found that serum β-cryptoxanthin was significantly but partially associated with radial BMD [25]. The results of these experimental and epidemiological studies strongly support the hypothesis that the development of osteoporosis may be reduced by \(\beta\)-cryptoxanthin intake.

In our data analysis, significantly lower odds ratios in the highest tertiles of vitamin C and β-cryptoxanthin intakes were observed, but these significant associations were not observed after adjusting for β-cryptoxanthin and/or vitamin C intakes, respectively (OR, 0.36; CI, 0.12–1.11 for vitamin C and OR, 0.70; CI, 0.27–1.90 for  $\beta$ -cryptoxanthin). These results indicate that a combined intake of vitamin C and βcryptoxanthin may be associated with radial BMD. Next, we examined the association of low radial BMD with the combined intake of vitamin C and β-cryptoxanthin. A significantly lower odds ratio was observed in the highintake group for both of vitamin C and β-cryptoxanthin than in the low-intake group for both nutrients after adjustments for age, years since menopause, weight, height, current tobacco use, regular alcohol intake, exercise habits, use of dietary supplements, and total energy. However, this significantly lower odds ratio became insignificant after further adjustments for intakes of calcium, magnesium, potassium, and vitamin D (data not shown). For this reason, we think that these micronutrients might be more relevant factors for BMD rather than vitamin C and βcryptoxanthin, or there is no denying the possibility of multicollinearity among these nutrients because these

micronutrients were also rich in fruit and vegetables. From these results, we concluded that the intakes of vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin may be significantly but partially associated with radial BMD, and these associations may be caused by a combination of vitamin C and  $\beta$ -cryptoxanthin. To our knowledge, there has been no experimental or epidemiological study of the combined effect of vitamin C and carotenoid on bone metabolism. It is conceivable that, rather than vitamin C alone, vitamin C intake combined with the intakes of other antioxidants such as carotenoids may yield an important dietary pattern conducive to the maintenance of bone health. Further studies on the complicated interactions of antioxidants on bone metabolism are required.

This study had some limitations. First, the data obtained here cross-sectional; therefore, only limited inferences can be made regarding temporality and causation. Furthermore, the sample size was limited, and thus further large-scale studies are required. Second, in our survey, portion size questions were not included for most items. Absolute nutrient intake could not be estimated from FFQ without portion size questions. Third, we evaluated radial BMD at 1/3 of the forearm length measured from the styloid process on the ulna. Therefore, an analysis of the association of serum carotenoids with BMD in cancellous bone, such as the femoral neck or lumbar spine, is required. Lastly, we could not evaluate the dietary patterns of other antioxidants such as flavonoids. Some studies have shown a beneficial effect of bioactive flavonoids on bone metabolism [49, 50].

In conclusion, dietary patterns heavily loaded on  $\beta$ -cryptoxanthin, and vitamin C are associated with radial BMD in post-menopausal Japanese female subjects. A high intake of vitamin C with  $\beta$ -cryptoxanthin is inversely associated with low radial BMD and may be beneficial to bone health. To determine whether antioxidant vitamins and carotenoids are beneficial to bone health, further cohort or intervention studies are required.

Acknowledgment This work was supported by a grant from the Ministry of Agriculture, Forestry, and Fisheries (MAFF) for a food research project titled "Integrated Research on Safety and Physiological Function of Food" and a grant from the Council for Advancement of Fruit Tree Science. We are grateful to the participants in our survey and to the staff of the health examination program for residents of the town of Mikkabi, Shizuoka, Japan. We are also grateful to the staff of the Seirei Preventive Health Care Center (Shizuoka, Japan).

Conflicts of interest None.

#### References

 Ministry of Health, Labor and Welfare. Comprehensive survey of living conditions of the people on Health and Welfare. Section3 2004. Available at: http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ktyosa/k-tyosa04/4-2.html (accessed 1 December 2009)



- Christodoulou C, Cooper C (2003) What is osteoporosis? Postgrad Med J 79:133–138
- Gennari C (2001) Calcium and vitamin D nutrition and bone disease of the elderly. Public Health Nutr 4:547–559
- 4. Prentice A (2004) Diet, nutrition and the prevention of osteoporosis. Public Health Nutr 7:227–243
- Macdonald HM, New SA, Golden MH, Campbell MK, Reid DM (2004) Nutritional associations with bone loss during the menopausal transition: evidence of a beneficial effect of calcium, alcohol, and fruit and vegetable nutrients and of a detrimental effect of fatty acids. Am J Clin Nutr 79:155–165
- New SA, Bolton-Smith C, Grubb DA, Reid DM (1997) Nutritional influences on bone mineral density: a crosssectional study in premenopausal women. Am J Clin Nutr 65:1831–1839
- Prynne CJ, Mishra GD, O'Connell MA, Muniz G, Laskey MA, Yan L, Prentice A, Ginty F (2006) Fruit and vegetable intakes and bone mineral status: a cross-sectional study in 5 age and sex cohorts. Am J Clin Nutr 83:1420–1428
- Okubo H, Sasaki S, Horiguchi H, Oguma E, Miyamoto K, Hosoi Y, Kim MK, Kayama F (2006) Dietary patterns associated with bone mineral density in premenopausal Japanese farmwomen. Am J Clin Nutr 83:1185–1192
- McGartland CP, Robson PJ, Murray LJ, Cran GW, Savage MJ, Watkins DC, Rooney MM, Boreham CA (2004) Fruit and vegetable consumption and bone mineral density: the Northern Ireland Young Hearts Project. Am J Clin Nutr 80:1019–1023
- Tucker KL, Chen H, Hannan MT, Cupples LA, Wilson PW, Felson D, Kiel DP (2002) Bone mineral density and dietary patterns in older adults: the Framingham Osteoporosis Study. Am J Clin Nutr 76:245–252
- Gutteridge JM (1994) Biological origin of free radicals, and mechanisms of antioxidant protection. Chem Biol Interact 91:133–140
- 12. Rock CL, Jacob RA, Bowen PE (1996) Update on the biological characteristics of the antioxidant micronutrients: vitamin C, vitamin E, and the carotenoids. J Am Diet Assoc 96:693–702
- Almeida M, Han L, Martin-Millan M, O'Brien CA, Manolagas SC (2007) Oxidative stress antagonizes Wnt signaling in osteoblast precursors by diverting beta-catenin from T cell factor- to forkhead box O-mediated transcription. J Biol Chem 282:27298–27305
- 14. Jilka RL, Weinstein RS, Parfitt AM, Manolagas SC (2007) Quantifying osteoblast and osteocyte apoptosis: challenges and rewards. J Bone Miner Res 22:1492–1501
- Garrett IR, Boyce BF, Oreffo RO, Bonewald L, Poser J, Mundy GR (1990) Oxygen-derived free radicals stimulate osteoclastic bone resorption in rodent bone in vitro and in vivo. J Clin Invest 85:632–639
- Basu S, Michaelsson K, Olofsson H, Johansson S, Melhus H (2001) Association between oxidative stress and bone mineral density. Biochem Biophys Res Commun 288:275–279
- 17. Yalin S, Bagis S, Polat G (2005) Is there a role of free oxygen radicals in primary male osteoporosis? Clin Exp Rheumatol 23:689–692
- Law MR, Hackshaw AK (1997) A meta-analysis of cigarette smoking, bone mineral density and risk of hip fracture: recognition of a major effect. BMJ 315:841–846
- Melhus H, Michaelsson K, Holmberg L, Wolk A, Ljunghall S (1999) Smoking, antioxidant vitamins, and the risk of hip fracture. J Bone Miner Res 14:129–135
- Maggio D, Barabani M, Pierandrei M (2003) Marked decrease in plasma antioxidants in aged osteoporotic women: results of a cross-sectional study. J Clin Endocrinol Metab 88:1523–1527
- Maggio D, Polidori MC, Barabani M, Tufi A, Ruggiero C, Cecchetti R, Aisa MC, Stahl W, Cherubini A (2006) Low levels of

- carotenoids and retinol in involutional osteoporosis. Bone 38:244-248
- 22. Yang Z, Zhang Z, Penniston KL, Binkley N, Tanumihardjo SA (2008) Serum carotenoid concentrations in postmenopausal women from the United States with and without osteoporosis. Int J Vitam Nutr Res 78:105–111
- 23. Sahni S, Hannan MT, Blumberg J, Cupples LA, Kiel DP, Tucker KL (2009) Inverse association of carotenoid intakes with 4-y change in bone mineral density in elderly men and women: the Framingham Osteoporosis Study. Am J Clin Nutr 89:416–424
- 24. Sahni S, Hannan MT, Gagnon D, Blumberg J, Cupples LA, Kiel DP, Tucker KL (2009) Protective effect of total and supplemental vitamin C intake on the risk of hip fracture—a 17-year follow-up from the Framingham Osteoporosis Study. Osteoporos Int 20:1853–1861
- 25. Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Ando F, Yano M (2008) Bone mineral density in post-menopausal female subjects is associated with serum antioxidant carotenoids. Osteoporos Int 19:211–219
- 26. Wakai K, Egami I, Kato K, Lin Y, Kawamura T, Tamakoshi A, Aoki R, Kojima M, Nakayama T, Wada M, Ohno Y (1999) A simple food frequency questionnaire for Japanese diet—Part I. Development of the questionnaire, and reproducibility and validity for food groups. J Epidemiol 9:216–226
- 27. Egami I, Wakai K, Kato K, Lin Y, Kawamura T, Tamakoshi A, Aoki R, Kojima M, Nakayama T, Wada M, Ohno Y (1999) A simple food frequency questionnaire for Japanese diet—Part II. Reproducibility and validity for nutrient intakes. J Epidemiol 9:227–234
- Science and Technology Agency (1983) Standard tables of food composition in Japan, 4th edn. Printing Bureau, Ministry of Finance, Tokyo, in Japanese
- 29. Science and Technology Agency (1997) Standard tables of food composition in Japan. (for new foods], 5th edn. Printing Bureau, Ministry of Finance, Tokyo, in Japanese
- Yano M, Kato M, Ikoma Y, Kawasaki A, Fukazawa Y, Sugiura M, Matsumoto H, Ohara Y, Nagao A, Ogawa K (2005) Quantitation of carotenoids in raw and processed fruits in Japan. Food Sci Technol Res 11:13–18
- Aizawa K, Inakuma T (2007) Quantitation of carotenoids in commonly consumed vegetables in Japan. Food Sci Technol Res 13:247–252
- 32. Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Matsumoto H, Ando F, Shimokata H, Yano M (2009) Synergistic interaction of cigarette smoking and alcohol drinking with serum carotenoid concentrations: findings from a middle-aged Japanese population. Br J Nutr 102:1211–1219
- 33. Orimo H, Hayashi Y, Fukunaga M et al (2001) Diagnostic criteria for primary osteoporosis. J Bone Miner Metab 19:331–337
- Feskanich D, Singh V, Willett WC, Colditz GA (2002) Vitamin A intake and hip fractures among postmenopausal women. JAMA 287:47–54
- 35. Melhus H, Michaëlsson K, Kindmark A, Bergström R, Holmberg L, Mallmin H, Wolk A, Ljunghall S (1998) Excessive dietary intake of vitamin A is associated with reduced bone mineral density and increased risk for hip fracture. Ann Intern Med 129:770–778
- Promislow JH, Goodman-Gruen D, Slymen DJ, Barrett-Connor E (2002) Retinol intake and bone mineral density in the elderly: the Rancho Bernardo Study. J Bone Miner Res 17:1349–1358
- Ministry of Health, Labor and Welfare. Recommended dietary allowance for Japanese: dietary reference intakes. Section 2 2009. Available at: http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/05/dl/s0529-4i. pdf (accessed 1 December 2009)



- 38. Poal-Manresa J, Little K, Trueta J (1970) Some observations on the effects of vitamin C deficiency on bone. Br J Exp Pathol 51:372–378
- Kipp DE, McElvain M, Kimmel DB, Akhter MP, Robinson RG, Lukert BP (1996) Scurvy results in decreased collagen synthesis and bone density in the guinea pig animal model. Bone 18:281–288
- 40. Termine JD (1990) Cellular activity, matrix proteins, and aging bone. Exp Gerontol 25:217–221
- Peterkofsky B (1991) Ascorbate requirement for hydroxylation and secretion of procollagen: relationship to inhibition of collagen synthesis in scurvy. Am J Clin Nutr 54:1135S–1140S
- Iotsova V, Caamano J, Loy J, Yang Y, Lewin A, Bravo R (1997) Osteopetrosis in mice lacking NF-kappaB1 and NF-kappaB2. Nat Med 3:1285–1289
- Baeuerle PA, Rupec RA, Pahl HL (1996) Reactive oxygen intermediates as second messengers of a general pathogen response. Pathol Biol (Paris) 44:29–35
- 44. Garrett IR, Boyce BF, Oreffo RO, Bonewald L, Poser J, Mundy GR (1996) Oxygen-derived free radicals stimulate osteoclastic bone resorption in rodent bone in vitro and in vivo. J Clin Invest 85:632–639

- 45. Bax BE, Alam AS, Banerji B, Bax CM, Bevis PJ, Stevens CR, Moonga BS, Blake DR, Zaidi M (1992) Stimulation of osteoclastic bone resorption by hydrogen peroxide. Biochem Biophys Res Commun 183:1153–1158
- 46. Yamaguchi M, Uchiyama S (2003) Effect of carotenoid on calcium content and alkaline phosphatase activity in rat femoral tissues in vitro: the unique anabolic effect of beta-cryptoxanthin. Biol Pharm Bull 26:1188–1191
- 47. Yamaguchi M, Uchiyama S (2004) Beta-cryptoxanthin stimulates bone formation and inhibits bone resorption in tissue culture in vitro. Mol Cell Biochem 258:137–144
- 48. Uchiyama S, Yamaguchi M (2004) Oral administration of betacryptoxanthin induces anabolic effects on bone components in the femoral tissues of rats in vivo. Biol Pharm Bull 27:232–235
- Hosseinimehr SJ, Nemati A (2006) Radioprotective effects of hesperidin against gamma irradiation in mouse bone marrow cells. Br J Radiol 79:415–418
- Chiba H, Uehara M, Wu J, Wang X, Masuyama R, Suzuki K, Kanazawa K, Ishimi Y (2003) Hesperidin, a citrus flavonoid, inhibits bone loss and decreases serum and hepatic lipids in ovariectomized mice. J Nutr 133:1892–1897



# 2. サルコペニアの疫学

下方 浩史\* 安藤 富士子\*\*

- の サルコペニアは 40 歳以上の地域在住男性の 25.0%, 女性の 24.2% に認められる.
- ❸ 加齢とともに男女で筋力は年間約1%低下する.筋量は男性のみで低下し、女性では筋量の変化は少なく、筋肉の質的な変化があるものと思われる.
- ◎ 一般の高齢者では、筋力や筋量には遺伝子多型よりも生活習慣などの影響のほうが大きい。
- ⊚ サルコペニアの主な危険因子は運動不足と低栄養、特に蛋白摂取の不足、カロテノイドやビタミンDの不足である。
- ◎ 適度な運動と適切な栄養摂取に心がけることで筋量や筋力の低下を防ぐことは十分可能であると考えられる.

Key Words

サルコペニア、疫学研究、カロテノイド、ビタミン D、DXA、

サルコペニアは高齢者の ADL を低下させ、健康長寿実現の大きな障害となる. しかし、老化に伴う筋量減少の実態は明らかでなく、また日常生活機能との関連もはっきりはしていない. 特に一般地域住民での日常生活機能と骨格筋量、筋力との関連についての疫学研究は日本ではほとんどない. 高齢者のサルコペニアや脆弱を予防していくためには、日本におけるサルコペニアの危険因子を明らかにするとともに、サルコペニアの危険因子を明らかにするような観察研究や介入研究などの疫学的研究が重要である.

### □ サルコペニアの実態

サルコペニアの頻度はその定義により異なるが、 米国での New Mexico Elderly Health Study からの報告<sup>1)</sup>では、二重エネルギー X 線吸収法 (DXA) を用いた診断で、70歳未満では20%程度であるが、80歳以上になると50%以上がサルコペニアとなるとしている。

われわれは平成9年から、無作為抽出された地域住民を対象としたコホート研究「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」を実施しており<sup>2)</sup>、第5次調査の参加者、40~88歳の中高年者 2,419名(男性4,200名、女性1,219名)を対象としてサルコペ

ニアの頻度について検討を行った. DXA (QDR 4500, Hologic) 装置をと用いて四肢除脂肪・除骨重量測定し、これを四肢筋量とした. 前述のNew Mexico Elderly Health Study の方法<sup>11</sup>に準じ、四肢筋量(kg)を身長(m)の二乗で除した値を skeletal muscle index(SMI)とし、サルコペニアの指標とした. その判定基準には同じDXA の Hologic QDR 4500 で測定した Sanadaら³による YAM(young adult mean:18~40歳の若年成人平均値)から標準偏差の 2 倍を引いた男性 6.87 kg/m²、女性 5.46 kg/m²を基準値としてサルコペニアの有無を判定した. その結果、この基準値から 40歳以上の男性の 25.0%が、女性の 24.2%がサルコペニアに分類された(図 1).

運動神経線維のうち、筋線維を支配して実際の筋収縮に関与する  $\alpha$  運動ニューロンは、加齢とともに 50%も低下するといわれる、特に下肢では軸索が長くなって障害を受けやすい、また筋の増殖に必要な骨格筋組織特異的幹細胞であるサテライト細胞も数が減少することが知られている、食欲の低下や運動不足、性ホルモンの分泌低下、炎症反応の増大などサルコペニアを引き起こすさまざまな要因が、加齢に伴って増加する<sup>4.5)</sup>

SMI は男性年間約0.3%低下するが、女性では SMI の低下はほとんどない、一方、筋力は男女

<sup>\*</sup>国立長寿医療研究センター予防開発部 \*\*愛知淑徳大学健康医療科学部

とも 40 歳以降、握力も下肢筋力も年間約 1%ずつ減少する。このことは女性では筋肉の量的な変化よりも質的な変化が問題になっていることを示している。男性ではどの年代においても女性よりも筋力は強く、80 代の男性の筋力は 40 代の女性の筋力にほぼ等しい(図 2)。もともと女性は男性よりも筋力が弱いために、加齢による筋力の低

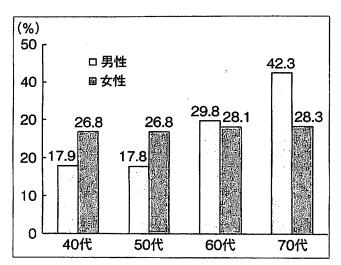


図1 年齢・性別にみたサルコペニアの頻度 DXA 法により性別の若年成人平均値(YAM)の -2SD を基準としてサルコペニアの判定を行った。 女性では年齢による変化はなかったが、男性では年 代上昇で割合が有意に上昇していた(Cochran-Mantel-Haenszel 検定で p trend<0.001).

下は女性により大きな影響を与える.

# □ サルコペニアの危険因子

ヨーロッパにおける老年学、栄養学などの学会 によるワーキンググループである The European Working Group on Sarcopenia in Older People (EWGSOP)<sup>6)</sup>ではサルコペニアを、加齢以外に 明らかな誘因がない原発性サルコペニア(primary sarcopenia) と、加齢以外の何らかの要因 がサルコペニアを引き起こす二次性サルコペニア (secondary sarcopenia) に分類している. さら に二次性サルコペニアを、ベッド上安静、運動し ない生活スタイル、廃用、無重力状態などが原因 となる身体活動性サルコペニア(activity-related sarcopenia),高度な臓器障害,炎症性疾患。 悪性腫瘍に伴う悪液質、内分泌疾患などによる疾 患性サルコペニア (disease-related sarcopenia), 吸収不良、胃腸疾患、食思不振を引き起こす薬剤 の使用に伴うエネルギーおよび蛋白質摂取不足な どによる栄養性サルコペニア(nutrition-related sarcopenia) の3つに分けている (表1).

これまでに報告されているサルコペニアの危険 因子には遺伝的素因、性別、加齢、身長、体重、 BMI、閉経、エストロゲン、テストステロン、

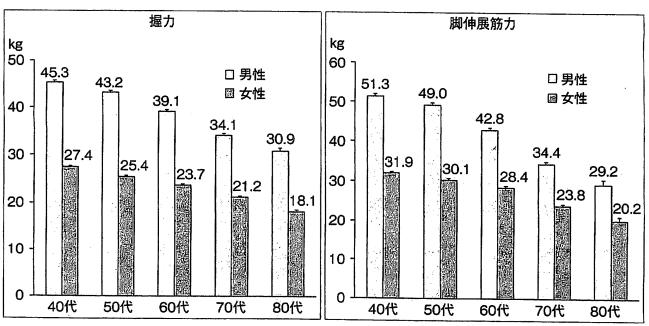


図2 年齢・性別にみた筋力

利き手の握力および脚伸展筋力(大腿四頭筋筋力)の年代別平均値および標準誤差.握力,脚伸展筋力は男女ともに、年代上昇に伴い減少していた(p trend<0.001). しかし、男性では握力は 80 代でも女性の 40 代よりも大きく、また男性の脚伸展筋力は 80 代でも女性の 40 代とほぼ同じ値であった.

表 1 サルコペニアの分類

原発性サルコペニア	
加齢性サルコペニア	加齢以外の原因がない
二次性サルコペニア	
身体活動性サルコペニア	ベッド上安静, 運動しない生活スタイル, 廃用, 無重力状態
疾患性サルコペニア	高度な臓器障害(心臓,肺,肝臓,腎臓,脳), 炎症性疾患,悪性腫瘍,内分泌疾患
栄養性サルコペニア	吸収不良、胃腸疾患、食思不振を引き起こす薬剤

(Cruz-Jentoft AJ, et al.: Age Ageing 39, 412-423, 2010. より引用)<sup>6)</sup>

総体脂肪量,身体活動,カロテノイド,ビタミン D. 分岐鎖アミノ酸および蛋白摂取量などがある. 遺伝的な素因としては、myostain の Lys153Arg 多型. alpha-actinin 3の R577X 多型が筋量や筋 力に関連しているとの報告がある<sup>7,8)</sup>. しかし, レジスタンストレーニングを行うスポーツ選手で はこうした遺伝子多型の影響があるとしても. 一 般の高齢者では遺伝子多型よりもむしろ生活習慣 のほうが筋力や筋量への影響が大きいと思われる.

# □ 身体活動とサルコペニア

運動不足による筋量や筋力の低下はどの年代に も起きうる。しかし高齢者では筋の再生・増殖機 能が低下しており、いったん減少した筋量は回復 が難しい. 筋量が低下し筋力が低下すれば. 運動 が困難になり、さらに筋量が低下するという悪循 環に陥りやすい10.一方、筋力トレーニングを中 心とした運動介入により高齢者でも筋力や筋量が 増加するという報告は多く4,6,身体活動はサル コペニア予防の重要な要素であるともいえる.

## □ 性ホルモンとサルコペニア

閉経により内臓脂肪は増加し、骨密度が低下し、 筋量および筋力が低下する。一方、エストロゲン の投与はこれらの変化を予防する効果があるとさ れる。テストステロンの筋増殖効果はよく知られ ている9. 高齢男性のテストステロンの低下と筋 量,筋力の低下が報告されている.加齢に伴い. 性ホルモン結合グロブリン(SHBG)が増加し, 生体作用を持つ遊離テストステロンが大きく低下

する、テストステロンは蛋白合成を促進する、テ ストステロンの低下は蛋白合成能の低下をきたし. 筋肉を萎縮させる、さらにテストステロンの低下 は筋サテライト細胞数の低下を引き起こし、筋肉 の再生・増殖能を低下させるといわれている10)

# □ カロテノイドとサルコペニア

高齢者の筋力低下、身体機能低下はフリーラジ カルによる酸化ストレスが原因の1つとなってい る可能性が指摘されている、酸化ストレスは骨格 筋の DNA を傷つけ、蛋白質や脂質に障害を与え る11,12)

抗酸化作用を持つカロテノイドが不足すると、 高齢者では筋力低下や歩行障害をきたすことが、 いくつかの疫学的研究で報告されている。米国の Women's Health and Aging Studies では、年齢、 人種, 喫煙, 心血管性疾患, 関節炎, 血清 IL-6 を調整して検討したところ、血清総カロテノイド の低下は握力、腰や脚の筋力の低下と有意に関連 していた<sup>13)</sup>. イタリア, トスカーナ州キャンティ 地区の地域在住高齢者での研究でも、Bカロテン 摂取量が高齢者の脚伸展筋力と相関していた14).

NILS-LSA のデータでは血清カロテノイドと 体力・運動や ADL との関係が示されている。外 出に不安がある人、階段の昇降や長距離の歩行が 困難である人では、血清カロテノイドが低値を示 した。一方、筋力や余暇活動時間、一日平均歩数 は血清カロテノイドと正の相関を示し、特に日常 活動量を示す一日平均歩数はすべての血清カロテ ノイドで正の関連を示していた。摂取エネルギー

で調整したβカロテン摂取量も正の関連を示したことから、単に「元気な人がたくさん食べている」のではなく、多く摂取する人が体力的にも健康であり、また、ADLの低下している人ではカロテノイドが不足している状況が明らかになった。

## □ ビタミン D とサルコペニア

血中の25-OH ビタミン D レベルは経口摂取, あるいは皮膚で産生されたビタミン D の量を反 映する指標である. 25-OH ビタミン D は老化と ともに低下することが知られている. ビタミン D はカルシウム代謝に関連するビタミンであり, 摂取量の不足は骨粗鬆症などの骨疾患の要因とな る. このビタミン D が筋肉とも関連することが 明らかになってきた.

ビタミンD受容体は筋肉中に存在し、ビタミンDが低下することで筋肉の蛋白同化作用が下がってしまう。またビタミンD受容体の遺伝子多型が高齢者のサルコペニアの要因の1つであることも報告されている<sup>15)</sup>. ビタミンDの低下が、高齢者の転倒や身体機能障害の要因であるとの報告がある<sup>16,17)</sup>. アムステルダム縦断加齢研究(Longitudinal Aging Study Amsterdam)での3年間の追跡研究ではベースラインの25-OHビタミンDが低値の場合には、高値の場合に比べて3年後にサルコペニアとなるオッズ比は2.57(95%信頼区間1.40~4.70)であった。このような結果からビタミンDの摂取の不足が、高齢者のサルコペニアを引き起こす可能性があると思われる<sup>18)</sup>.

# □ 蛋白質、アミノ酸とサルコペニア

筋肉は蛋白質からなっており、蛋白質摂取量、アミノ酸摂取量が低下すれば、筋量は当然低下する. 1 食あたりの蛋白質量が 20~25 g であるときが筋蛋白質の合成がもっとも高いとされている 19,20). 食事摂取基準では、健康な 70 歳以上者に必要な蛋白質量は 1.06 g/体重 kg であり、男性 60 g、女性 50 g 以上が必要とされている. しかし、エネルギー消費量が減少し、食事量全体が少なくなってしまう高齢者の食事では、必要な蛋白質摂取を維持することが難しい場合もある.

体内で合成できない必須アミノ酸のうちロイジン、イソロイシン、バリンは炭素骨格が分岐した構造をもつことから分岐鎖アミノ酸と呼ばれる. これらの分岐鎖アミノ酸は筋肉をつくる主な蛋白質であるアクチンとミオシンの主成分である. 十分な分岐鎖アミノ酸を摂取することで筋肉の消耗を防ぐことができる可能性がある<sup>21,22)</sup>. 分岐鎖アミノ酸は肉類、乳製品、レバーなどに多く含まれるが、高齢者ではこうした食品は敬遠されることが多いことも、高齢者のサルコペニアの要因となっている可能性がある.

#### まとめ

サルコペニアは 40 歳以上の地域在住男性の 25.0%, 女性の 24.2%に認められ, 多くの人が サルコペニアの状態にある. サルコペニアは特に 高齢者に多くみられ, 健康長寿達成の大きな障害 となる. サルコペニアの予防が, 高齢化がさらに 進んでいく今後の日本にとって重要な課題である. サルコペニアの主な危険因子は運動不足と低栄養, 特に蛋白質摂取の不足, カロテノイドやビタミン D の不足である. 筋力や筋量の低下には, 老化による避けがたい生理的な要因もあるが, 適度な 運動と適切な栄養摂取に心がけることで, 筋量や 筋力の低下を防ぐことは十分可能である.

#### 文 献

- Baumgartner RN, Koehler KM, Gallagher D, et al.: Epidemiology of sarcopenia among the elderly in New Mexico. Am J Epidemiol 147: 755-763, 1998
- Shimokata H, Ando F, Niino N: A new comprehensive study on aging-the National Institute for Longevity Sciences, Longitudinal Study of Aging (NILS-LSA). J Epidemiol 10: S1-S9, 2000
- Sanada K, Miyachi M, Tanimoto M, et al.: A crosssectional study of sarcopenia in Japanese men and women: reference values and association with cardiovascular risk factors. Eur J Appl Physiol 110: 57-65, 2010
- 4) Volpi E, Nazemi R, Fujita S: Muscle tissue changes with aging. Curr Opin Clin Nutr Metab Care 7: 405-410, 2004
- 5) Doherty TJ: Aging and sarcopenia. J Appl Physiol 95: 1717-1727, 2003
- 6) Cruz-Jentoft AJ, Baeyens JP, Bauer JM, et al.: Sarcopenia: European consensus on definition and diagnosis: Report of the European Working Group on Sarcopenia in

- Older People. Age Ageing 39: 412-423, 2010
- 7) Clarkson PM, Devaney JM, Gordish-Dressman H, et al.: ACTN3 genotype is associated with increases in muscle strength in response to resistance training in women. J Appl Physiol 99(1): 154-163, 2005 Jul
- 8) Ivey FM, Roth SM, Ferrell RE, et al.: Effects of age, gender, and myostatin genotype on the hypertrophic response to heavy resistance strength training. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 55: M641-648, 2000
- 9) Maltais ML, Desroches J, Dionne IJ: Changes in muscle mass and strength after menopause. J Musculoskelet Neuronal Interact 9: 186-197, 2009
- 10) Solomon AM, Bouloux PM: Modifying muscle mass-the endocrine perspective. J Endocrinol 191: 349-360, 2006
- 11) Semba RD, Lauretani F, Ferrucci L: Carotenoids as protection against sarcopenia in older adults. Arch Biochem Biophys 458: 141-145, 2007
- 12) Weindruch R: Interventions based on the possibility that oxidative stress contributes to sarcopenia. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 50: 157-161, 1995
- 13) Semba RD, Blaum C, Guralnik JM, et al.: Carotenoid and vitamin E status are associated with indicators of sarcopenia among older women living in the community. Aging Clin Exp Res 15: 482-487, 2003
- 14) Cesari M, Pahor M, Bartali B, et al.: Antioxidants and physical performance in elderly persons: the Invecchiare in Chianti (InCHIANTI) study. Am J Clin Nutr 79: 289-294, 2004

- 15) Roth SM, Zmuda JM, Cauley JA, et al.: Vitamin D receptor genotype is associated with fat-free mass and sarcopenia in elderly men. J Gerontol A Biol Sci Med Sci 59: 10-15, 2004
- 16) Suzuki T, Kwon J, Kim H, et al.: Low serum 25hydroxyvitamin D levels associated with falls among Japanese community-dwelling elderly. J Bone Miner Res 23: 1309-1317, 2008
- 17) Kwon J, Suzuki T, Yoshida H, et al.: Concomitant lower serum albumin and vitamin D levels are associated with decreased objective physical performance among Japanese community-dwelling elderly. Gerontology 53: 322– 328, 2007
- 18) Visser M, Deeg DJ, Lips P: Low vitamin D and high parathyroid hormone levels as determinants of loss of muscle strength and muscle mass (sarcopenia): the Longitudinal Aging Study Amsterdam. J Clin Endocrinol Metab 88: 5766-5772, 2003
- Paddon-Jones D, Short KR, Campbell WW, et al.: Role of dietary protein in the sarcopenia of aging. Am J Clin Nutr 87: 1562S-1566S, 2008
- Paddon-Jones D, Rasmussen BB: Dietary protein recommendations and the prevention of sarcopenia. Curr Opin Clin Nutr Metab Care 12: 86-90, 2009
- 21) Dreyer HC, Volpi E: Role of protein and amino acids in the pathophysiology and treatment of sarcopenia. J Am Coll Nutr 24: 140S-145S, 2005
- 22) Fujita S, Volpi E: Amino acids and muscle loss with aging. J Nutr 136(Suppl): 277S-280S, 2006